

株主の
みなさまへ

通期 株主通信

第149期 | 平成24年4月1日から
平成25年3月31日まで

工業用薬剤の
トップ企業として、
京都から世界と未来へ
こたえる。

チャレンジ100計画
CHANGE 100
2012.4-2015.3



こたえる、
化学



第一工業製薬

DKS CO. LTD.

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに第149期の通期株主通信をお届けし、当社グループの事業の概況をご報告申し上げます。

当期における当社グループの業績は、まず、連結売上高につきましては518億43百万円となり、前年同期比7.8%減少いたしました。当社は、界面活性剤事業、アメニティ材料事業、ウレタン材料事業、機能材料事業、電子デバイス材料事業の5つの事業セグメントに分けて管理しておりますが、当期は、界面活性剤事業が増収となりましたものの、他の4つのセグメントにおいて減収となりました。特に、電子デバイス材料事業の売上高が顕著に落ち込みました。

界面活性剤事業の増収は、石鹼洗剤用途などの活性剤が大幅に伸長したことが大きな要因でございます。これに対し、電子デバイス材料事業の減収は、電子部品材料用途の導電性ペーストが顕著に落ち込んだことが大きな要因でございます。

次に、損益面でございますが、連結営業利益は17億54百万円で、前年同期比13.7%減少、連結経常利益は15億44百万円で、前年同期比11.4%減少いたしました。

これは、売上高の大幅な減少に加えまして、価格競争の激化によります販売価格の値下げや原材料価格の高騰など、売価と原価の価格バランスが悪化したことが大きな要因でございます。

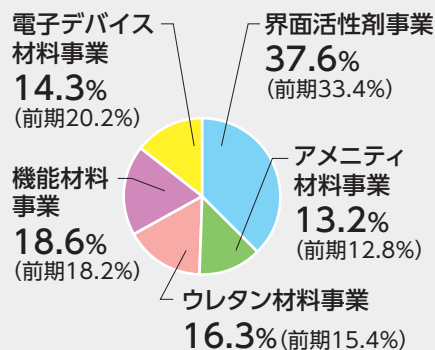
ただ、連結当期純利益につきましては、前期は多額の投資有価証券評価損を計上しましたが、当期は固定資産の減損損失などの計上にとどまったことにより、7億97百万円、前年同期比382.4%増となりました。

期末配当金につきましては、将来の事業展開に必要な内部留保金との整合性を図りつつ、株主のみなさまへの長期的、安定的な配当を維持することを基本方針としておりますが、当期業績及び今後の事業環境を勘案して、1株当たり7円とさせていただきます。

化学業界にとりましては、厳しい経営環境が続いておりますが、株主のみなさまにおかれましては、引き続きご支援ご協力のほど、何卒よろしく願い申し上げます。

■ 界面活性剤事業	売上高 194億86百万円	前年同期比 3.8%増
■ アメニティ材料事業	売上高 68億25百万円	前年同期比 5.5%減
■ ウレタン材料事業	売上高 84億66百万円	前年同期比 1.9%減
■ 機能材料事業	売上高 96億66百万円	前年同期比 5.5%減
■ 電子デバイス材料事業	売上高 73億98百万円	前年同期比 35.0%減

[売上高構成比]

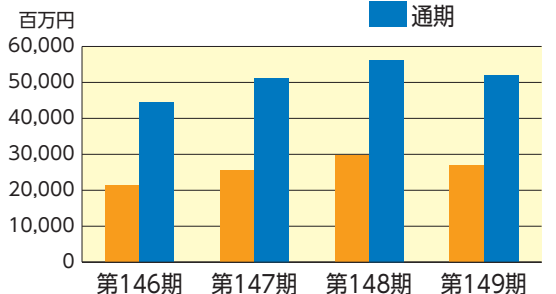


平成25年6月
代表取締役社長執行役員

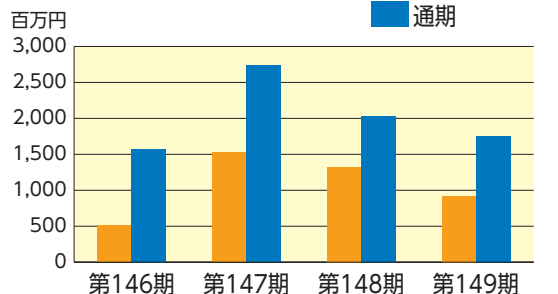
大柳 雅利



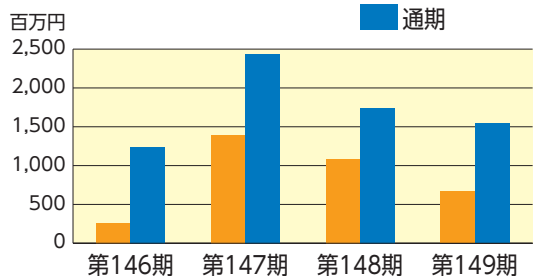
売上高



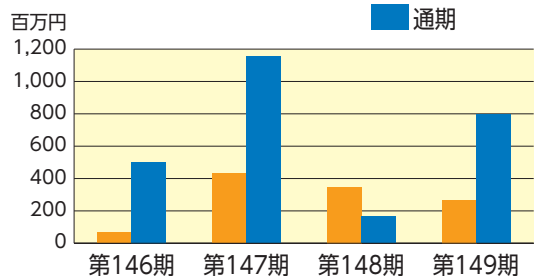
営業利益



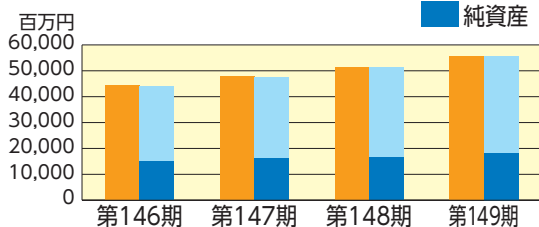
経常利益



純利益



資産、負債及び純資産



POINT 1

資産は第148期末と比べて40億59百万円増加し、554億16百万円となりました。その主な要因は、現金及び預金、受取手形及び売掛金、有形固定資産が増加したことなどによるものです。

POINT 2

負債は第148期末と比べ28億8百万円増加し、372億15百万円となりました。その主な要因はリース債務(固定負債)が減少しましたが、リース債務(流動負債)や長期借入金が増加したことなどによるものです。

POINT 3

純資産は第148期末と比べ12億51百万円増加し、182億円となりました。その主な要因は、配当金の支払や当期純利益の計上などにより利益剰余金、その他有価証券評価差額金が増加したことなどによるものです。また、自己資本比率は、第148期末と比べて0.3ポイント悪化し31.1%となりました。

「こたえる、化学」の株主さまに

代表取締役会長 坂本 隆司

はじめに

21世紀に入って干支十二支が一回りして平成25年、2013年を迎えました。この間に、第一工業製薬は皆さま方のご支援によりまして百周年を刻むことができました。前世紀がインターナショナルリゼーション(国際化)、マルチナショナルリゼーション(多国籍化)の進んだ時代とすれば、今世紀はグローバルリゼーション(地球化)が深まり多様性を増すと見られます。昨年末の政権交替以降の流れで変化する日本にあって、当社はどのように存続の道を歩むのか、たどらねばならないか。現行の「チェンジ100計画」、ステージIIの第二年度の大切さを考え、経営のポイントについてお伝えします。

株式会社の使命

株主さま、お取引先、社員、そして社会の4つが、企業を取り巻くステークホルダー(利害関係者)と言われます。世界で最初の株式会社は、1600年のオランダの東インド会社でした。出資者と経営者が同一の形は、所有と経営の分離に発展し株主が経営者を評価するようになります。株主さまの関心は、出資した**会社が収益を上げて配当を行い成長してゆくこと**にあります。関係する企業の価値が、継続して増え続けることへの期待です。これは、昔も今も、これからも変わらないと、株主さまはお考えのことと存じます。当社は、そのご期待に応える責務があります。

第149期、今年の株主総会に関する課題、あるいは株主さまの視点に見るご関心事を3点挙げてみます。第一に、企業の対処すべき課題、第二に、業務の適正を確保する体

制整備、第三に、買収防衛の基本方針です。企業の使命である存続と成長に直結するこれらの命題を、企業価値を表わす一つの指標の株価を取り上げてご説明します。

収益構造の変化

失われた日本経済の20年間は、当社にとっても厳しい20年であり株式価格の低迷が続きました。株価は、景気の波を映しながら会社の業績に連動して上下するのが一般です。収益を生み出せる事業構造作りを第一義に取り組んで来ましたが、**収益を生み出す構造に、変化が出ています。**

第149期の業績が、前年比で減収減益となったことは総会でお話した通りです。ただ、21世紀に入ってから12年間の業績の移ろいを見ると、3つの変化があります。まず、売上高と利益の関係を表わす**損益分岐点**です。利益が出る売上高の水準であり、低いほど収益力の高い会社ということになります。以前は100%を超える時期もありました。販売しても利益が出ないということです。2010年の147期には80%半ばになり、過去最高の利益を計上しました。昨年度も、何とか90%台前半です。

次は、**季節性要因による収益悪化の克服**です。4月から3月まで、一カ月ごとの決算の12年分を比較しました。当社の本体は、経済環境とは別に季節的な理由で収益が厳しくなる月が今も二つ、三つあります。前年度も販売量が3割近く落ちた月がありました。しかし、その月を含めて、1年を通じて赤字になった月次決算は一度もありません。

三点目は、**事業の中味の変化**です。儲け頭の部門から赤字で足を引っ張る部門まで、会社ではセグメントと呼ぶ分

類が30近くあります。以前は、かなりの赤字部門が収益を圧迫していました。これが、この6年間に大きく改善しています。赤字部門でも、戦略的な開発途上のものと選択的排除の対象が明確になりました。

株価低迷の原因

アベノミクスの3本目の矢である成長戦略は、企業にとって最も重要なテーマです。「ADD21計画」、「チェンジ100計画、ステージI、II」の中期経営計画を通じて、成長物語の実現を描きました。特に、百年史では「京都から世界へ、未来へ」と地理的、時間的に発展する第一工業製薬を強調しています。成長が企業価値を継続的に拡大する源であり、株価の安定的上昇を伴うと見ました。

しかし、昨年末以降の株式市場での当社の株価の推移は、思わしくありません。理由は、三つあると分析しています。第一に、知名度の不足、第二に、会社内容の難しさ、従って、第三に出来高が少ない、これらが株価低迷の原因と見ています。

資料. 化学業界に見る株価指標の比較

	DKS	S社	A社	K社
PER(倍)	13.6	15.6	14.5	21.5
PBR(倍)	0.62	0.63	0.66	2.65
配当利回り(%)	2.92	2.96	2.68	2.13
出来高率* (%)	2.83	4.35	6.44	7.36
騰落率** (%)	1.27	1.46	1.48	1.57

(東洋経済「会社四季報」春号を参照、2013.05.07作成)

注* =2012年12月出来高÷発行株数

注** =2013年5月7日終値÷2012年12月最安値

(本稿は2013年6月25日に開催しました第149期定時株主総会後の経営説明会の概要をとりまとめたものです。)

存在感を高めるために

昔は、モノゲンが一世を風靡していました。現在は、この会社を一言で表現するブランドがありません。「工業用薬剤のトップ企業」は専門誌が使用された表現です。化学の素材メーカーとしての**社外への発信が必要**と考えています。

株式売買の出来高の低さは、上場会社としての存在感の薄さということになります。収益を生み出す、あるいは好業績が出せる会社になったという楽観的な見方は全くしていません。変化が始めたことを認めつつも、これを定着させるのが残り2年を切った「チェンジ」のステージIIと位置づけています。株式市場を意識し、これまででもストックオプション制度の導入、公募増資の策を講じてきました。

四日市拠点の再編、そして……

第一工業製薬の未来作りの基礎が、本年度から着手する**四日市拠点の再編**です。生産、技術、研究開発の集合基地化を目指します。

グローバル化が進む世界に向うシンボルが、**英文呼称の変更**です。DKSと短くし、企業の価値を世界が認識できる第一歩を踏み出します。

そして、**コーポレートガバナンス(=企業統治)を強化**します。昨年9月末でした。株主さまのご動向には、いつも最大限に留意しています。新しい株主さまが目にとまりました。海外関係の投資家でした。執行の監督の強化に一層注力します。市場との対話です。益々のご支援をお願いします。

株式会社すざく路^{みち}、 新製品をラインアップ

京都発のすざく路では、インターネット通販で化粧品事業をすすめています。スクロス・マイルドウォッシングジェルは、低刺激で安全性の高い洗浄成分として、40年以上の研究開発を続けている当社のショ糖脂肪酸エステル^①の技術と知見を活かした商品です。洗顔しながらのマッサージで、お肌のターンオーバーを整えます。さらに新製品として当社100年の界面活性剤技術を用いてオイルフリーで、肌にやさしくメイクを落とすアクアクレンジングも加えました。今後もスキンケア製品を中心に化粧品分野での事業拡大をめざしていきます。

 すざく路 ホームページ <http://www.suzaku-michi.com/>

マイルドウォッシングジェル(左)
アクアクレンジング(右)

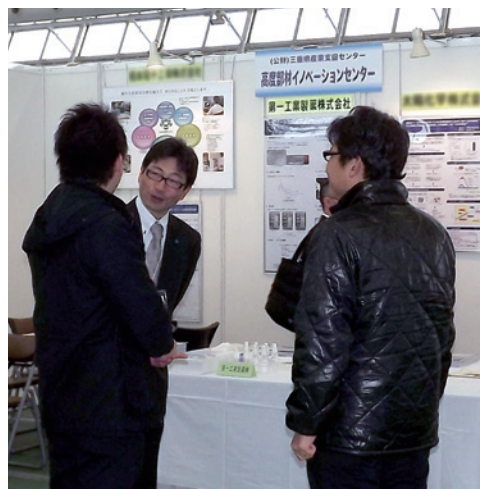


リーディング産業展みえ2013 セルロースナノファイバーを出展

当社は、1949年にカルボキシメチルセルロースナトリウム(CMC)の研究をスタートし、1950年に生産を開始しています。60年以上にわたるセルロース誘導体の技術と最新の研究との融合により、透明なゲル状でありながらスプレー噴霧が可能な透明酸化セルロース(TOC)の研究開発を進めています。

この特長を活かして化粧品分野での高付加価値製品としての位置づけを固めます。

2013年2月13日～14日 三重県 四日市ドーム



■ 取締役、監査役、執行役員

(平成25年 6月25日現在)

役 職	氏 名	役 職	氏 名
代 表 取 締 役 会 長	坂 本 隆 司	取 締 役 上 席 執 行 役 員	浦 山 勇
		取 締 役 上 席 執 行 役 員	赤 瀬 宜 伸
代 表 取 締 役 員 社 長 執 行 役 員	大 柳 雅 利	取 締 役 上 席 執 行 役 員	池 田 克 己
		取 締 役 (社 外 取 締 役)	本 間 義 昭
取 締 役 常 務 執 行 役 員	松 本 和 久	取 締 役 (社 外 取 締 役)	上 野 啓
取 締 役 常 務 執 行 役 員	蛭 子 博 幸		
常 勤 監 査 役	関 口 恒	監 査 役 (社 外 監 査 役)	井 手 秀 彦
常 勤 監 査 役	西 崎 信 一	監 査 役 (社 外 監 査 役)	勝 田 純 一
執 行 役 員	藤 岡 敏 式	執 行 役 員	岡 本 修 身
執 行 役 員	大 西 英 明	執 行 役 員	北 田 明
執 行 役 員	角 英 行	執 行 役 員	三 浦 宏 之
執 行 役 員	村 上 修		

■ 事 業 所

名 称	所 在 地	TEL	FAX
本 店	〒600-8873 京都市下京区西七条東久保町55		
本 社	〒601-8391 京都市南区吉祥院大河原町5	075-323-5911	075-326-7356
東 京 本 社	〒104-0031 東京都中央区京橋1-3-1 八重洲口大栄ビル8階	03-3275-0561	03-3275-0593
大 阪 支 社	〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4-2-16 大阪朝日生命館2階	06-6229-1717	06-6229-1793
名 古 屋 支 店	〒450-0001 名古屋市中村区那古野1-47-1 名古屋国際センタービル7階	052-571-6331	052-586-4539
九 州 支 店	〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1-2-3 博多駅前第1ビル4階	092-472-6353	092-472-4989
研 究 所	〒601-8391 京都市南区吉祥院大河原町5	075-323-5911	075-326-7356
四 日 市 事 業 所	〒510-0051 三重県四日市市千歳町7	059-352-3191	059-352-3195
大 湊 事 業 所	〒949-3116 新潟県上越市大湊区犀湊230	025-534-2811	025-534-2606
滋 賀 事 業 所	〒529-1403 滋賀県東近江市五個荘日吉町427	0748-48-3131	0748-48-3128

株主メモ

創 業 年 月 明治42年4月 (1909年4月)
 設 立 年 月 大正7年8月 (1918年8月)
 事 業 年 度 4月1日から3月31日まで
 定 時 株 主 総 会 毎年6月下旬
 配 当 期 期末配当金受領株主確定日 3月31日、中間配当金受領株主確定日 9月30日
 基 準 日 毎年3月31日、その他必要あるときはあらかじめ公告して定めた日
 単 元 株 式 数 1,000株
 発 行 可 能 株 式 総 数 102,110,000株 (平成25年3月31日現在)
 発 行 済 株 式 総 数 43,421,609株 (平成25年3月31日現在)
 株 主 数 6,178名 (平成25年3月31日現在)
 株 主 名 簿 管 理 人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
 みずほ信託銀行(株)
 郵 便 物 送 付 先 (お問い合わせ先)

	証券会社に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵便物送付先	お取引の証券会社になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行(株) 証券代行部
電話お問い合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く9:00~17:00)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金 受取り方法の変更等)		みずほ証券(株) 本店、全国各支店および営業所 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗) * カスタマープラザではお取り扱いできませんのでご了承ください。 みずほ信託銀行(株) 本店および全国各支店 * トラストラウンジではお取り扱いできませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行(株)および(株)みずほ銀行の本店および全国各支店 (みずほ証券(株)では取次のみとなります)	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別 口座の場合」の郵便物送付先・電話 お問い合わせ先・各種手続お取扱店を ご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の 株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、 株式の振替手続を行っていただく必要があります。

公 告 の 方 法 電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による
公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

公告掲載URL (<http://www.dks-web.co.jp>)

第一工業製薬

検索

上 場 取 引 所 東京証券取引所 (証券コード 4461)

第一工業製薬株式会社

〒601-8391 京都市南区吉祥院大河原町5
 TEL 075-323-5911 FAX 075-326-7356
<http://www.dks-web.co.jp>



この用紙費用の一部は
『世界の子どもにワクチンを
日本委員会 (JCV)』に
寄付されております。
www.jcv-jp.org

UniversalPrinting®

UD
FONT

